

STUDIOUS 通信

18号

運営：NPO法人JACFA
所轄：福岡市精神保健福祉センター

福岡市ひきこもり成年地域支援センター
おかよルーム

イベントニュース



この日のメニューは
チャーハン、親子丼、
お吸い物 でした！
ボリューム満点♪

料理教室

油の代わりに
マヨネーズで
炒めました！



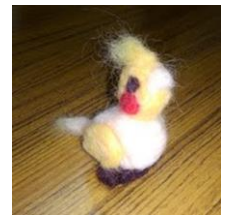
レディースデー



ネイル体験
みなさん華やか♪



羊毛フェルトで
小物作り☆



本の紹介



フランクフル著「夜と霧」(みすず書房)

原書のタイトルは「それでも人生にイエスと言う: 強制収容所における一人の心理学者の体験」。第二次世界大戦の当時、ユダヤ人であった精神科医のフランクフルが、ナチスドイツによって強制収容所に送られた際の体験を記録・考察した、いわばノンフィクション文学です。一説には600万人以上が亡くなったとされる「ホロコースト」に関して、その一端を経験した著者は、人生には3つの意義(価値)があると考えます。それは、「創造価値」「体験価値」「態度価値」の3つです。創造価値とは、何かを創作したり達成したりすることで、体験価値とは、芸術を鑑賞したり、自然の美しさを体験すること。態度価値とは、どんな状況でも人間らしい態度で運命を受け止めようとする。強制収容所において壮絶な体験を周りの人々とともに経験する中で、フランクフルはひとつの考えに至りました。それは、人間は強制収容所のような場所で創造価値や体験価値の実現が難しくなっても、自身のおかれた運命を人間として受け止め生きていくことで、態度価値の実現をすることは可能であり、つまり、どんな時でも人生には意味があるのだということです。その発想が、「それでも人生にイエスと言う」というタイトルに表現されています。2種類の翻訳があり、池田香代子訳(新訳)は丁寧に読みやすく訳されていて、霜山徳爾訳(旧訳)は様々な資料を付録につけながら、味わいのある文体で訳されています。

P.N.: 眼鏡パンダの練習帳

加藤諦三著「悩みの正体 何が人の心を落ち込ませるのか」

加藤諦三さんや河合隼雄さんの本は、たくさん出版されていますが、その多くは読み手の精神状況等に配慮して、ショッキングな表現はオブラートに包んで書かれている気がします。だから、重要なことがあちこちに書かれてるのにもかかわらず、読んでいて本人が気付かない、自分事だと思えない、というもどかしさがあったりします。それに比べて、この本は、悩みがちな普通? の人向けに書かれているようで、割とグサッと突き刺さることが、めずらしく書かれているように思います。それは、生きづらさを抱えている人たちの根本原因であり、でも同時に一番指摘されたくないことでもある気がします。だから、この本を読む途中、寝込んだり、気分が悪くなるかもしれません。でも、最後まで読めば、「夜眠れなくなる自分の凄さ」や「悩みがちで気疲れしてしまう自分の凄さ」に気付けるかもしれません。電子書籍版もあります。 推薦文: K.S.



「とんかつDJアゲ太郎」1~11 原案: イーピャオ 漫画: 小山ゆうじろう



渋谷生まれ渋谷育ちの勝又揚太郎は、渋谷のとんかつ屋「しぶかつ」の3代目。しかし、本人はやる気がなく、なんとなく見習い修行をやる日々。そんな揚太郎はひょんなことから、クラブに行くことになり、伝説のDJビッグマスターフライと出会う。そこで、彼は気付く「豚をアゲるか、フロアをアゲるか、大した違いはない、俺は豚もフロアもアゲられるとんかつDJになる!」肉すら触らせてもらえない、音楽も素人な揚太郎が、様々な人物と出会い、とんかつ屋としても、DJとしても、その非凡なる才能を開花させていく感動巨編。渋谷から始まった物語はやがて、アジア・ヨーロッパ・アメリカのクラブカルチャーととんかつカルチャーを巻き込みながら、しぶかつと伝説のDJとの奇妙なルーツへと向かっていく...

紙のコミックス版では、実際のとんかつ名店紹介、本職DJによるDJやクラブミュージックの解説、現役ミュージシャンのコラム等、おまけページが充実しており、揚げ物のようにお腹にずしりくる内容になっているので一番おすすめです。

推薦文: K.S.

作品館



作：YOSS

<コメント>
おかげさまで、
再現できました。



作：ユララ



「とある街中の飛行形態水蒸気
<ライディングクラウド>」
撮影：まな



作：K.S.



「1万年に1匹の美猫」
撮影：まさお



「妖怪展の写真」
撮影：よかよかできいき

ご寄稿
ありがとう
ございました



「撫でられてるネコちゃん」
撮影：まさお

<コメント>
ずっと断られるのが怖くて誘えませんでした
ですが、誘って妖怪展に行き、写真までとりました
また自分から誘おうかなと芽生え始めました



グループスタッフからの一言



今年の春からグループ活動に参加して、たくさんの方々に出逢いました。はじめは少し緊張してドキドキしましたが、みなさんの優しい気持ちに支えられて、気づけばもう秋に…。回を重ねる毎に成長していけるみなさんの姿を見られて嬉しいです。これからも、“ひとりもいいけど誰かと一緒に時間もいいかも”と思える瞬間をいっしょにつくれるといいなあと思っています。

スタッフ M

今年の夏は大変暑かったですが、皆様はいかがお過ごしでしたか？よかよかルームのグループでは、穏やかでゆったりとした時間が流れていたように思います。時には少し休みつ、前向きに一步一步踏み出していくお手伝いができればと思っています。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

スタッフ A

毎月第2水曜日のレディースデイは、少人数でゆったりとした時間を過ごすことができます。せっかく集まったメンバー同士では「ひきこもり女子会」のように、本音で話し合えたらと願っていますが、まずは家の外に出て、みんなと一緒に、自分らしくいられる楽しいひと時を過ごせるようにと思っています。生きてゆくのはひとりではありません。お仲間がいて、心が安らぎ、明日に向かう力が得られることでしょう。皆さんのご利用をお待ちしています。

スタッフ N

よくグループ活動の前に今日の太陽はどこにいるかな～なんて空を見上げます。まあ毎週大体同じような方角・角度から私たちを見ていてくれます。ただ太陽も、ぐるっと一周回って毎日同じような位置にあるんですね。私も毎回ボーッと眺めるだけで、この太陽が何周回ってそこにたどり着いたかななんて想像することもないままですが（笑）身の回りの見えていない変化を遂げているものを探してみようかなあと思う今日の頃です。

スタッフ D

STUDIOUSとは・・・

「人間がある状況において、いきいきと熱中している幸せな状態のこと」

よかよかルームのグループに参加するみなさんが

そういう状態を感じられることを願って名付けました。

★火曜グループ

「一緒に経験する。集団の中での協調性・自主性を養い、社会に踏み出す準備をする」

★木曜グループ

「場所や人に馴染み、人を受け入れ自分自身も表現する力を養う」

★レディースデー

「女性だけの空間でトークと活動を楽しむ」

※事前登録が必要です。詳しくはHP、もしくはお電話でお問い合わせください。

※STUDIOUSのブログや予定表、通信のバックナンバーがHPで見られます。

ぜひ御覧ください♪ → <http://yokayoka-room.net>

ご意見募集中&よかよかルームご案内

皆さんの原稿・感想・ご意見を募集しています。

～宛先はこちら～

〒810-0073

福岡市中央区舞鶴2丁目5-1 あいれふ3階

福岡市ひきこもり成年地域支援センター
よかよかルーム

TEL：092-716-3344

HP：<http://yokayoka-room.net>



運営：NPO法人JACFA

所轄：福岡市精神保健福祉センター



表紙：レバン
編集：よかよかルーム
2018年9月発行